

生徒、教職員、PTA、地域が一体となった教育環境の充実

桑山中学校 PTA

1 学校・地域の概要

(1) 学校の概要

本校は、生徒数 586 名、20 学級の防府市で一番大きい中学校である。校区内の 4 つの小
学校から迎えた生徒は活気にあふれ、充実した学校生活を送っている。生徒は落ち着いて
おり、学校行事や部活動、学習に意欲的である。特に、運動会や文化祭などは、生徒が積
極的に人間関係を育み社会性を培う行事として、保護者や地域の方の協力を得て盛大に開
催され、生徒も楽しみにしている。

一方で、生活経験や学習経験が異なる生徒集団であるため、人見知りの生徒が多く心を
開くまで時間がかかることや、感謝の気持ちを表現することが苦手なところが課題となっ
ている。



ICTを活用したコミュニケーション活動



運動会での部活動行進

(2) 地域の概要

本校のPTA活動は大変盛んである。多くの保護者、
地域の方の参加があるのは、組織づくりがしっかりとど
できているからである。各部門の代表者の献身的な取組と、
それを支える保護者や地域の方の協力により、これまで
多くの成果をあげてきた。

一方で、保護者の多くが仕事に就いているため、PT
A活動と仕事の板挟みになるケースがあり、持続可能な
PTA活動のあり方を模索することが課題である。



地域の祭にボランティアとして参加

3 研究テーマについて

(1) 研究テーマ 生徒、教職員、P T A、地域が一体となった教育環境の充実

(2) テーマ設定の意図

本校は平成29年度から新校舎となり、真新しい施設において教育活動を推進している。真新しい施設は冷暖房完備でI C T環境が充実している等、大変快適である。

しかし、2年目を迎え“慣れ”が出始めると、散乱したロッカーや埃がたまっただまの教室など様々な問題が浮き彫りになってきた。素晴らしい環境で過ごす生徒や教職員がどのような学びの環境を創り上げていくかが今後の課題であり、この課題を解決していくことが、学校目標の「志をもち、心豊かでたくましい生徒の育成」の実現につながると考えている。もちろん、この課題の解決のためには、保護者や地域の協力を得え、共に創り上げるが含まれている。

そこで、新しい環境に甘えることなく、生徒、教師、保護者、地域が一体となって新しい桑山中学校の教育環境をつくることを本年度の研究テーマとした。「人が環境をつくり、環境が人をつくる」と言われるが、生徒、教職員、保護者それぞれが地域を巻き込みながら、これからの時代にあった活動を進め、新しい桑山中学校の教育環境をつくり、その教育環境の中で目指す生徒を育てる。特に、P T A活動においては、地域の力を借りながら、桑山中学校の教育環境の充実と生徒の教育の下支えを行うことで、学校運営に協力し、学校文化の創造に寄与することをめざした。



P T A総会の様子



P T A学級懇談会の一コマ

(3) 実践事例

今回の助成金を活用した実践として、「花飾りプロジェクト」「教育環境の整備」の2つを紹介する。この実践を通して、自分たちの環境を支えている方の存在に気づかせ、感謝の気持ちをもたせたい。また、保護者や地域の方と一緒に作業や活動をすることで、「チーム桑山」の意識を高め、教育環境の充実と学校文化を一緒に作る場の設定をめざした。



4 活動内容

(1) 花飾りプロジェクト

本校では、毎週火曜日に、PTAと地域ボランティアが連動した「花飾りプロジェクト」を行っている。本プロジェクトは、当時の古い校舎を少しでも美しくし、生徒が過ごしやすい環境にしようと平成28年度途中から始まった。開始当初こそ、生徒や教職員が反応を示したり感謝の言葉を表したりと反応があったが、ここ最近は、「花があることが当たり前」になってしまい、せっかくのプロジェクトの効果が薄れてきてしまった。

そこで、今年度は、従来の花飾り活動に対して、生徒ができることは何かを考える取組を盛り込んだ。花があることが当たり前でなく、自分たちの学校を支える人の存在に気づくこと、感謝の気持ちをもつことで、自分が過ごす環境は、自分やそれを支える人々で成り立つことを学ばせることをねらったのである。

① 花瓶をきれいにする ～相手意識の醸成～

花飾りプロジェクトは、各教室から回収した花瓶に新しい花を生けることから始まる。実は、この花瓶が汚いまま返却されるケースが増えたため、担当の方が一人で大小あわせて40個の花瓶を洗って花を生ける準備をしていたのである。

この事実を全校集会で教頭から全校生徒に伝え、その方の気持ちや自分だったらどうするかについて考えさせた。いただいた助成金でたわしを購入し、各クラスで生徒が花瓶を洗って返却することにした。自分たちで花瓶を洗うことで、水の冷たさ、作業の煩わしさを肌で感じながら、そういう作業を自分たちのためにしてくれる人の存在に気づくことで、飾られている花を見る目を養うことができたのである。

もちろん花瓶がきれいになったことをボランティアの方が喜ばれた。花を生ける作業がスムーズになることに加え生徒の気づかいに逆に感謝の言葉をいただいた。この事実を生徒に返すことで、花を通じてお互いにつながることもできた。



活動と出来上がった生け花



自主的に洗って返却します

② 感謝を言葉にする ～相手に気持ちを伝える～

花飾りプロジェクトがどのように行われているか、実際に生徒に知らせることも大切に

ある。昨年度は、生徒会のメンバーが花飾りプロジェクトに参加し、実際にPTAや地域ボランティアの方と一緒に花を生ける活動を行った。



共同作業の様子



上手にできました

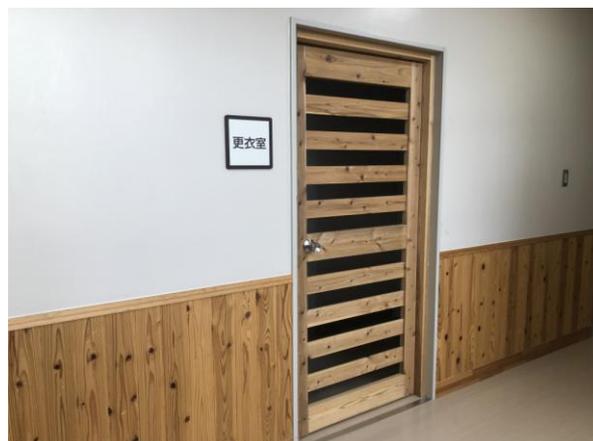
本年度は、新生徒会のメンバーがこのプロジェクトを全校生徒に紹介する活動や、卒業生がお世話になった方々に感謝状を贈る活動に取り組んだ。実際に交流したり感謝の言葉を伝えたりすることで、活動を身近に感じ、花を大切にするという雰囲気を育てようとしたのである。

成果としては、花飾りプロジェクトの励みや達成感につながったこと、生徒が花を通して教師以外の大人と関わることができた。「花があるから美しく素晴らしい教育環境である」のではなく、「花や花に関わる人の存在を感じ、花がある環境を大切にしたいと思う心が通う環境が素晴らしい教育環境である」ことを具現化することができた。

(2) 教育環境の整備

今年度は玄関先におくチェア、更衣室の仕切りドア、多目的ホールで使うローテーブルを製作し、活用した。製作にあたっては地域ボランティアの技術を借りた。

左下の写真は、玄関先におくチェアを事務職員が地域ボランティアと協力して制作している様子である。来客者が靴を履き替えるために利用したり植物を置いたりして活用している。また、右下の写真は、更衣室の仕切りドアである。施設を使用する際の不便を解消



し、学校の教育活動がより良くなるように環境を改善することに保護者や地域ボランティアの力を借りた。

さらに、多目的ホールにはローテーブルを置いた。ホールを開放し、ローテーブルで勉強をしたり、集会やちょっとした指導に使うなど、新しい環境を自分たちが成長する場としたりして作り替えていくことができた。



環境整備をみんなで協力して

5 成果と課題

(1) 成果

保護者や地域の方が学校に関わる機会を多くもつことで、子どもの成長を間近で感じ、学校との距離を縮めることができたことは間違いない。特に、生徒にとっては、自分たちを支える人の存在に気づき感謝の気持ちを高めることで、心豊かな経験を積むことができた。教職員にとっては、PTAや地域ボランティアの協力を得ることで気持ちのゆとりができ、その分を指導の充実に充てることができた。保護者や地域ボランティアの存在を教職員が常に意識し、学校教育が教師だけの力で成立しないことを実感できた。

(2) 課題

今年度のPTA活動を振り返ると、保護者の負担過多の現状が確かに存在する。持続可能なPTA活動を目指し、内容の見直しを図ることが今後の課題である。活動自体もPTAだけで行うのではなく、生徒とPTAとが共同で活動する場を工夫して設け、世代ごとの考えを交換し合ったり世代を超えて共感できる経験をもったりすることで、より豊かな学校環境づくりに取り組みたい。

